

いわゆる変換ミスというのがありますね。小生の外勤先に、「四肢体幹」のつもりで打つと「死し大患」と変換される電子カルテがあり、横で患者さんが見ているかもしれない中でなんという変換をしてくれるのだとあきれますが、相手は機械ですから仕方ありません。ネット上では面白い変換ミスを集めたサイトがあり、「今年から海外に住み始めました→今年から貝が胃に棲み始めました」、「規制中で渋滞だ→寄生虫で重体だ」などが笑えます。

本誌投稿論文にもしばしば変換ミスがありますので、査読時に気づいたら直しています。最近では変換ミスを見つけるのが楽しみになり、間違いやすい字が出てくるたびに眼を光らせています。特に多い変換ミスを紹介しますので、執筆時の参考になればと思います。

- ・ **有意, 優位**: どちらも論文でよく使う言葉ですので、間違いやすいですね。変換ミスのチャンピオンでしょう。
- ・ **海綿, 海面**: 皮膚科では前者はよく使いますが後者はほとんど使いません。うっかり海面状態などと書かないようにしたいものです。
- ・ **曝露, 暴露**: 光線や毒物などに曝されるのは曝露ですが、暴露と書かれていることが多いですね。暴露は秘密や悪事などを暴くときに使う言葉で、意味が全然違います。曝が常用漢字でないことから曝露のことを暴露と書くのも現在では必ずしも間違いではありませんが、萎縮を萎縮と書くようなもので、あまり感心しません。
- ・ **健診, 検診**: 医者ならこの両者の違いは分かっていると思いますが、意識して区別しないと間違えてしまいます。
- ・ **斑, 班**: 紅斑, 紫斑などは辞書に入っているのですがほとんど間違いはありませんが、単独で斑と書くときに班と打ってしまう変換ミスが生じやすいようです。字体も似ているので気づきにくいですね。
- ・ **菌種, 菌腫**: 通常は前者でよいのですが、たまに菌腫 mycetoma について書こうとすると、変換ミスが生じます。
- ・ **空胞, 空砲**: 空砲変性, などと書かれているのをみると、楽しくなってしまいます。
- ・ **考按, 考案**: 医学論文で考案のことを考按と書く習慣がありましたが、やや古い言い方です。考案は「工夫し考え出すこと」であり、考案とは全く意味が違いますので、考案の意味で考案と書かないようにしましょう。

(相馬良直)

— 顧 問 —

肥田野信 大原國章

— 編集委員 —

大塚藤男 土田哲也 五十嵐敦之 相馬良直 林 伸和

「皮膚科の臨床」第59巻 第12号 11月号 2017年11月1日発行(毎月1回1日発行) 定 価 (本体 2,700 円 + 税) 年間購読料金 定価 (本体 42,100 円 + 税) [年間13冊(臨時増刊号, 増大号を含む)の誌代] [年間予約購読者に限り送料無料]	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村 直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14 TEL 03(3811) 7165 [編集室直通] TEL 03(3811) 7184 [営業部直通] FAX 03(3813) 0288 ホームページ http://www.kanehara-shuppan.co.jp 雑誌部 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005 広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600
--	---

- ・ 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は金原出版株式会社が保有します。
- ・ **JCOPY** <(社)出版者著作権管理機構 委託出版物>
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。